



TITLE:

獨逸帝國全體二亘ル半官企業組織 新説

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 獨逸帝國全體二亘ル半官企業組織新説. 經濟論叢 1915, 1(4): 609-613

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126907>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第四號

第一卷

論說

●收益ト生産費トノ關係

●專賣ト戰後財政

●經濟學認識論ノ若干問題(二、三)

雜錄

●危險分散主義ノ原則

●經濟主義ニ就テ

●英吉利ノ農政問題(二、三)

●享保年間ノ米價調節(二、三)

雜報

●經濟的進化ト人口法則(二)

●戰爭利得稅新案

●獨逸帝國全體ニ亘ル半官企業組織新說

●英國ノ戰費ト經濟

●獨逸ノ植民の運動ノ回想

●相續稅ト家族制度

●本多利明ノ著書ニ就テ

●こんらゝ教授逝ク

法學博士 河上肇

法學博士 小川郷太郎

法學博士 左右田喜一郎

法學博士 神戸正雄

法學博士 戸田海市

助教授 河田嗣郎

法學士 本庄榮治郎

講師 米田庄太郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 神戸正雄

助教授 河田嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 神戸正雄

法學士 本庄榮治郎

助教授 河田嗣郎

獨逸帝國全體ニ巨ル半 官企業組織新説

(獨逸帝國株式會社新案)

法學博士 神戸 正雄

前號ニハ獨逸ノ戰時ニ於ケル諸多ノ既設經濟組織ニツキテ報告シタ。處ガ其等ノモノハ、戰時狀態ガ永引クト、各小規模ノ企業ノコトトテ其活動不十分トナルヲ免レナイ。茲ニ於テカ別ニ一大經濟組織ヲ作ツテ其缺陷ヲ補足シヤウトイフノガ最近入手シタルに、んかんふトイフ人ノ帝國株式會社論*トイフ書物ニ現ハレタル考デアル。戰時非常ノ必要ニ應ズルトイフノガ、刻下此會社ヲ起サザルヲ得ザル所以デアルガ、平和克復後ニモ存続シテ、適當ニ活動セシメヤウトイフノデアル。會社ハ固ヨリ公益ヲ計ルヲ

主トスルガ、同時ニ私益ヲモ追ハウトイフノデ、組織ノ出發點ハ國營、之ニ私營分子ヲモ交エテ、半官半私組織ト爲シ、之ニヨリ官營ノ弊害ヲ避ケ民營ノ利益ヲ收メ、同時ニ國家全般ノ利益ヲ確實ニシテ、私營ノ公益無視ノ弊害ヲ避ケヤウトイフノデアル。此ハ實ハ戰爭ニ關聯シテ、實行ノ機運ヲ速メタトモイハルルガ、近年獨逸ニテ一部ノ思想家ノ間ニ切リニ工夫セラレツツアル問題デアリ、既ニ又一部ノ所謂公共獨占企業ニ試驗的ニ行ハレタ所デモアル。日本デハ官業拂下トイヘバ、民間少數資本家本位ノ打算カラ成ル傾ガアリ、之ニ於テ政治ノ腐敗、富豪者流ノ我利々々主義、更ニハ新聞雜誌ノ此等ノ者ノ意ヲ迎エテ唯ダ自ラ爲ニスレバ足ルトイフノ風潮ヲ示シテ、甚ダ遺憾ニ堪エナイ。此ニ紹介スル所ノ案ハ固ヨリ完成ノ域ニ達シタモノデハナク、尙ホ改修補訂ノ餘地ハアルガ、而モ之ニヨリテ如何ニ獨逸ニ於テ現下ノ戰時ニ處スルニツキテ經濟組織ニ關シテ苦心シツツアルカノ一斑ヲ知ルコトノ出來ルト共ニ、如何ニ公共的意義ヲ

* Nienkamp, Die Reichs-Aktiengesellschaft. (Berlin-Charlottenburg)

有スル企業ニ特殊ノ官營組織又ハ半官半私經濟組織ガ問題トナリツツアルカヲモ知ルコトガ出來、幾分ナリトモ此ノ不眞面目ナル日本ノ社會ヲ覺醒スルノ一資料タランカト思フテ敢テ報告スルコトトシタ。

先ツ此會社ノ定款ニ關スル法律案ノ主要ノ點ハ左ノ通りデアル。

(一)會社ノ地位 本會社ハ公益株式會社トシテ帝國政府ノ監督ニ屬シ、本法ニ特段ナル規定アルモノノ外、商法ノ適用ヲ受ケ
(二)會社ノ目的及業務 本會社ハ公益上獨逸國民經濟ヲ管理スルヲ以テ目的トス。此目的ノ爲メ、特ニ國民經濟ニ必要又ハ有益ニシテ經濟ト直接又ハ間接ニ關聯シタル企業ナルモノ、國家又ハ私經濟ノ處理スル能ハズ又ハ満足ニ處理セザルモノヲ營ムモノトス。

本會社ノ營業範圍ハ監督會ガ反對ノ決議ヲ爲サザル以上ハ無制限トス。但シ公益上必要ナル場合ニハ帝國宰相ハ監督會ノ決議ニ依ラズシテ本會社ノ指定種ノ業務又ハ營業方法ヲ禁止スルコトヲ得。

本會社ノ理事會ハ行政裁判所ニ訴エテ此禁止ガ本會社ノ目的ニ照ラシテ正當ナリヤノ決定ヲ求ムルコトヲ得。

(三)會社ノ營業所 本會社ノ本店ハ之ヲ柏林ニ置ク。本會社ハ帝國領域内ニ支店ヲ設クルコトヲ得。

(四)會社ノ機關 本會社ニ左ノ機關ヲ置ク。

(a)理事會 帝國宰相ノ認可ヲ經テ監督會之ヲ命ス。
(b)監督會 總會ノ選出シタル少クトモ十五人ノ委員ト、帝國宰相ノ代理者タル一員トヲ以テ構成ス。

(c)總會

(五)會社ノ資本金 本會社ノ資本金ハ十億馬克トス。株式ヲ分ツテ大株式及小株式トシ、大株式ハ一株百萬馬克五百株、小株式ハ一株百萬馬克五百萬株トス。大株式ハ一株毎ニ總會ニ於ケル投票權百箇ヲ有シ、小株式ハ百株ニツキ一箇ノ投票權ヲ有スルモノトス。

株式ハ獨逸各邦ニ於テ一定ノ割合ヲ以テ之ヲ引受クルモノトス。各邦ハ其引受ケタル大株式ヲ市町村又ハ其他ノ公共團體ニ其引受ケタル小株式ヲ私人ニ賣却スルコトヲ得。

帝國銀行ハ銀行券十億馬克ヲ本會社ニ交付シテ株金ノ拂込ニ充テシム。株主ハ各引受額ニツキ帝國銀行ヨリ貸付ヲ受ケ、之ガ爲メニ其株式ヲ帝國銀行ニ擔保品トシテ提供スルモノトス。帝國銀行ハ此擔保品ナレバ株式ヲ以テ銀行券ノ準備ニ充ツルコトヲ得。此場合ニ於テ銀行券稅ニツキテハ正貨準備ニ準ズ。

株主ハ何時ニテモ銀行券ノ相當額ヲ提供シテ株式ノ買入ヲ解クコトヲ得。

株主ハ平和克復後年々其株式金額ノ二十五分ノ一ツ、ヲ拂込ムノ義務ヲ負フモノトス。

(六)會社ノ積立金及利益配當 利益金中ヨリ年々其五分ニ相當スルモノヲ積立金ニ充ツ。積立金ニハ年四分ノ利子ヲ附ス。

(續記上)

純益中ヨリ先ツ小株式ニ對シテ其評價ノ四分マデノ配當ヲ爲シ、次ニ大株式ニ同率マテノ配當ヲ爲ス。其殘額ハ大株式ニ對シテ三分ノ一、小株式ニ對シテ三分ノ二割合ヲ以テ配當シ、配當金額ガ株式ノ呼價ノ八分ニ至テ之ヲ止ム。八分以上ニ該當スヘキ殘額ハ之ヲ積立金ト爲ス。

各年ニ於ケル利益ガ小株式ニ對シテ其評價ノ四分ノ配當ヲ爲スニ足ラザル場合ニハ、積立金中ヨリ補足シテ其配當ヲ四分ニ達セシム。

(七)會社ノ課税 本會社ニハ其財産又ハ所得ニツキ所得稅營業稅及其他ノ帝國各邦及地方稅ヲ免除ス。其株式ニハ印紙及租稅ヲ免除ス。

(八)會社ノ解散 本會社ノ解散ハ帝國法律ニヨツテ之ヲ行フ。尙ホ右ノ法律案中ニハナイガ、説明ノ中ニ事業經營ノ爲メ分科ヲ列擧シテ左ノ如クシテ居ル。總務部ノ外ニ(一)農礦業部、(二)道路橋梁鐵道水利部、(三)家屋及機械建造部、(四)其他ノ諸工業部、(五)商業部、(六)勞力紹介及分配部等はレデア

ル。デ其事業ノ目的又ハ内容ハ右ノ法律案ニモアル通り、原則トシテハ無制限デアアル。全體ノ爲メ必要有益ナルモ、國家又ハ民間私企業ノ爲シ能ハズ、假令之ヲ爲スモ不十分ナリト認メラルル

ダケデハ之ヲ爲ス。其事業ノ汎汎ナルコト右ノ分科ニヨリテモ知ラルル通りデアアルガ、先ツ勞力ノ分配ノ不適合ヲ救済スル。異地方、特ニ例之田舎ト都會トノ間、更ニ異企業ノ間ノ勞力ノ過不足ヲ調節シ、各箇ノ勞力ニツキ最適當ナル地位ヲ求メ、其ノ之ナキ場合ニハ比較的有利ニ使用セラルヘキ處ニ之ヲ向ケ、而モ尙ホ勞力ノ餘レルダケデハ、特ニ鐵道、治水、排水、道路、橋梁、勞働者住屋、及其他私人ノ建築工事ニ資金ノ供給ヲ便シテ、勞力使用ノ處ヲ作り、他方ニハ餘レル材料ニモ使用ノ處ヲ與フル。而シテ勞力ニ堪ヘザル人民ノ爲メノ救済ニ就キテモ、此會社ニ於テ最適當ナル方法ニテ世話スルコトスル。

次ニハ原料ノ缺乏ヲ嘆ズルモノニハ之ヲ求メテ供給ヲ紹介シ、製品ノ注交ヲ缺クモノニモ之ヲ求メテ紹介スル。原料ニツキテハ內國ニモナク、中立國ヨリ輸入スルコトモ出來ズ、科學ノ力ニヨル代用品モ見出サレザル場合ニハ、之ヲ使用スル事業ヲ中止スルノ外ナイガ、其ノ得ラルルダケデハ、各企業ニ對シテ其國家ニ對スル重

要度ニ從ヒ、適當ナル順位ヲ定メテ之ヲ供給スルコトトスル。

隨テハ此會社ニ於テ此等ノ必要ナル原料ヲ紹介スルニ止マラズ、自ラ製造シテ之ヲ供給スルコトトモナリ、之ガ發明ヲ獎勵シ保護シ、特ニ缺乏材料ノ代用品發明ノ獎勵ニ力ヲ用ユル。

更ニハ戰爭ノ爲メニ困却セル企業ニ干與シ、又ハ之ヲ全部買收シ、又ハ目下ノ事情利益薄クシテ私人ニ於テ企業心ヲ起サナイガ、必要有益ナル事業ト思ヘバ、此會社ガ進ンデ之ヲ新設スルコトストラモアル。

右困却セル事業ト關聯シ、更ニ餘レル勞力材料吸收ノ爲メノ諸事業ト關聯シテ金融ヲモ爲スコトトナル。夫ノ開戦後間モナク初マレル貸付金庫ノ如キハ一定ノ現在價值ヲ擔保トシテ提供スルモノニノミ、貸付ヲ爲スノニ、此會社ハ未來價值ニモ融通シ、將來有望ナル事業ヲシテモ企ツルコトヲ得セシムル。

此等ノ仕事ヲ遂行スル爲メニ租税ニ依ルコトハ今日ノ場合出來ヌ。戰時税ノ既ニ高キ其上ニ

之ヲ課スルノ困難ナルモノガアルカラ、便宜手段トシテ銀行券ノ増發ニヨリ、帝國銀行ノ無利子貸付ヲ以テ調達スル。此ハ戰時非常ノ手段ニ屬スルカラ多ク問ハストシテ、

特ニ此組織ノ特段ナルコトハ株式ヲ大小二種ニ區分シテ、大株式ハ國家自ラ又ハ公共團體、持ツコトトシ、他ノ半分タル小株式ハ私人ノ有タラシメテ、半官半私組織トスルコトニ在ル。之ニヨツテ純國家營業ノ動モスレバ、陷ル弊害ヲ避ケ、私營業ノ經濟主義的經營ノ利益ヲ收メヤウ、而モ公益事業トシテ適當ニ國家公共團體ガ干與シテ、私業ノ公益無視ヲ防グコトトスル。人民ハ此組織ニヨリテ直接ニモ此事業ニ干與シテ利益ヲ受クルコトヲ得ルガ、國家公共團體ヲ通ホシテ間接ニ干與スルコトニモナル。此會社ハ役人ノミニ任カス所ノ官業ヨリモ一層多大ナル利益ヲ擧グルコトガ出來ヤウガ、其利益ハ其レダケ私人ハ懷ヲ肥ヤシ、他方其利益ガ總ガテ各邦收入ヲ増加シテ租税ヲ輕易トスルヲ得ルニ於テモ私人ヲ利スル。一種ノ社會主義ヲ實行スルモノ

トモ見ラルガ、然シ私有財産私企業ハ從來ノ如ク認メラレ、全經濟交通亦舊來ト同デアル。戰時ニハ國家的必要カアルカラ、此會社ニ或最高權ヲモ認ムルノ餘儀ナキコトナルガ、然シ平時ニハ此ハヤラヌ。必スシモ經濟上ノ獨占ヲ振ハナイ。私商工業ヲ幫助シ進歩スルガ、之ニ競爭ヲ齎ラシ之ニ損害ヲ與フルコトハナカラウ。

此組織ハ此ノ如ク巧妙ニ出來テ居ルガ、併シ唯一ノ疑問ハ、此ガ普通ノ私企業ニ競爭壓迫ヲ與フルコトナキヲ得ルヤトイフコトデアル。案ノ主唱者ハ斯カル恐ナシトイフガ、其ハ怪シイモノデアル。予ハ多少斯カル恐アリト思フ。之ト同時ニ斯カル壓迫競爭ガアツテモ差支ナシト思フ。公益上必要ト認メラレ、公益進歩ノ結果ヲモツ以上ハ、多少少數私人ノ利益ヲ害シテモ差支ナイ。單純ナル私企業モ今日ノ大勢デハ益々大規模トナツテ經濟上弱小者ヲ壓迫スルヲ免レナイ。均シク大ナルモノガ小ナルモノヲ壓迫スルナラバ、純私的ノモノガ壓迫スルヨリモ、公益的ノモノガ壓迫スル方が弊害ガ少クテ濟ム。